

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3-08	令和4年度第3回すみだ環境共創区民会議	
開催日時	令和4年6月29日(水) 18時30分から19時30分まで		
開催場所	墨田区役所 3階 会議室31		
出席者数	17人 【委員】 13人 来場による参加 宇田川委員、森下委員、小林(紀)委員、土屋委員、橋本(玲)委員、佐野委員、門倉委員、佐原委員、小木曾委員、小林(茂)委員 オンライン参加 橋本(恵)委員、碓氷委員、松村委員 【事務局】 3人 都市整備部環境担当参事、環境保全課環境管理担当星加主査、小野主事		
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	なし
議題	1 環境保全課長あいさつ 2 周知・啓発方法の検討 3 他の自治体等の事例について		
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和策と適応策について(再掲)【資料1】 ・ゼロカーボンに係る委員からの意見【資料2】 ・区の緩和策の周知方法及び実績件数について【資料3】 ・2022年度の電力需給に関する総合対策【資料4】 ・食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」推進事業【資料5】 ・【足立区】再エネ100電力導入サポートプラン協力金【資料6】 ・【次世代自動車用】江東区地球温暖化防止設備購入助成事業【資料7】 		
会議概要	<p>議題1 環境保全課長あいさつ</p> <p>議題2 周知・啓発方法の検討</p> <p>星加主査からまず資料1～3の内容を説明。緩和策と適応策について資料1で振り返りを行い、資料2で今までの会議でのゼロカーボンの検討で委員から出た意見を紹介。資料3で区の緩和策の周知方法と実績件数について説明。その上で緩和策・適応策に対する効果的な周知方法について、委員に対し意見を伺った。</p> <p>土屋委員：区報においてCO₂削減関連のものをあまり見たことがない。特集を組むなどして区民に対し、なぜCO₂削減が必要なのかを広報すべき。他の自治体と比較して墨田区が新聞に取り上げられるような施策を展開し、区民がCO₂を削減するきっかけを作る。そのために白熱電球からLEDへの無償交換などを実施して、こんなことをやらないと大変なんだという危機感を持たせるべきである。</p>		

橋本玲委員：以前は環境フェアの出展団体が多く、活気があって若い人がたくさん来ていた。環境フェアの来場者で若い世代が少ない。もう少し若い人に向けてアピールするべき。

松村委員：環境フェアでは若い人が少ないと感じた。若い人に来てほしい。お年寄り、子どもが多かった。周知方法が大事。若い人の中には温暖化・気候変動が進んでいないと思う人もいるので、若い人向けの周知方法を工夫していくべき。

星加主査：ところで、区の HP をご覧になったことはあるか。現状について不満や意見等あればお伺いしたい。

土屋委員：CO2 削減の広報は経済産業省、環境省、文部科学省など様々な機関が行っている。墨田区も独自の PR 広報を見やすい方法でできると良い。例えば環境省では新旧くんというものがいい。そのように区の現状と環境フェアで色々意見が出 HP では知りたい情報へ行きつくのに時間がかかる。区で必要な情報がすぐに見つかるようなものであればわざわざ環境省に行かなくても済むので、そういった情報を増やすのがいいと思う。

佐原委員：HP は役所的。検索すると過去の記事がすべて出てきたり、あるいは求める情報が出てこない。むしろこの会議が独自に HP を持って興味を持っている情報を発信するのがいいと思う。あまり役に立たない。訴えかけるものがない。

森下委員：能動的になれるようなものにした方がいい。自分が気になる問題、例えば温暖化や水やゴミ問題などのメニューがあって、気になったメニューを選ぶと詳細な情報にたどりつけるようなものになると良い。作りこむ必要はなく、外部サイトの情報へリンクを貼ったりしても良い。さらにエコポイントのようなポイントがつくものだと皆さんに興味を持ってもらえるのではないかと思う。

佐原委員：環境学習ツールは知らなかったが、内容がよかった。区の HP からツールにすぐにアクセスできるようにするべき。

橋本恵委員：HP は粗大ごみの出し方など目的があるときにしか見ないが、目的のところにはなかなかたどりつけない。

碓氷委員：緩和策、適応策について意見を述べる。雨水の利用促進について、区では助成制度で普及させるだけでなく、条例で規定するべきではないかと思う。節電について、緩和策と適応策に関わることなので、今後節電をテーマにして議論すべき。

土屋委員：粗大ごみのチャットボットはよくできているので、電気ポットを 1 時間使用したらどれくらい CO₂ を排出するかなど、CO2 削減量バージョンを作成するのも良いのでは。

森下委員：HP はスマホでも見やすいものにするべき。また、せっかく HP があつたとしてもそれを知らなければ意味がないので、商業施設など、人の目につくところでポスターを貼ったりして広報していくことが大事。現在、電力ひっ迫、ウクライナ情勢などがあり節電に関して危機感を持ってもら

しやすいので、見えるところに広報していくのが良い。3. 11のときに、それまで経済産業省のHPの閲覧数が数千程度だったものが、節電を呼びかけるHPを展開したところ、12万件くらいの登録があった。多くの企業の協力（プレゼント提供）も仰ぎ、節電方法がわかるいいサイトになった。周知と中身の充実を兼ね備えたものにしたら良いと思う。

小林茂委員：周知方法について。先日の環境フェアはお子さんなどいろんな層の人が来ていい機会であった。ああいったイベントは記憶に残っていいと思うが、一過性で終わってしまう可能性もある。イベントに来て緑化をやろうと思っても住宅環境でできないと思っている人がいるのでは。やりたい気持ちはあるのにできない人のために、区が持っている人の目につく緑町公園の垂直フェンスを貸し出して、緑のカーテンをやりたい人にやらせる。若いうちから緑化活動に参加してもらうことで、緑化とはこういうことなのかということをや若いうち身をもって体験してもらう。緑化を継続して学ぶ。持続可能な周知方法を考えつつ、かつ緑のカーテンコンテストのイベントにも参加してもらうのがいいと思う。また、以前から提案しているコンポストの活用について、生ごみを肥料化したものを先述のフェンスの周りにまくこととなるべくゴミを出さない、再利用することも同時にしていくのもいいと思う。それをSNSに上げるなどして、周知と実践を兼ねてやっていくことが大事。

佐原委員：商店街の街灯をLEDに変えた。効果を教えてほしい。どれくらい電力が下がったのかわかる化したら興味がわくのでは。区として率先してやっていることをアピールすべき。

小木曾委員：町会もいいが、以前庁舎の共用部分の電灯を一斉にLEDに切り替えたときの電気代の変化を見せたらいいのでは。ちょうど10年経っているので、LEDの寿命を迎えているので、入れ替える前と後の電気代で比較しやすいのではないかと思う。

土屋委員：LEDについて、広報と連携して町会がLED化したことを周知すべき。また、継続的に取り組むのであれば、介護施設、他の公的施設、学校なども一斉にLEDに交換し、それによるCO₂の削減量をPRするなど、訴えかけるようなものを広報と組んで実施すべき。そうすることで削減の効果がわかるし、区の本気度もわかるので良いと思う。

佐原委員：碓氷委員の言っていた雨水助成について、あった方がいいとは思いますが、大規模な建物については貯水槽の設置を義務付けているが、条例上ノルマで設置するのはいいが、設置後のタンクの使われ途について、それでおしまいになっている。区と雨水市民の会で使い道を調査しているが、使い道について区として整備していくのが良いと考える。雨水は空だと降水時に遊水池になるが、満タンだとならない。消火などもしものときに空だと使えず、満タンだと使えるという逆の性質がある。単に面積、貯水量だけでなく、遊水池としての機能と、いざというときに使用でき

るという機能の両面で機能するよう考える必要がある。もう一点、太陽光発電について、屋上ほぼ全面設置したマンションがあったが、蓄電せず売電している。防災的にはあった方がいい。全部でなくても少しは蓄電した方がいいと感じる。太陽光パネルのみならず非常用蓄電装置も義務化すべき。

佐野委員：太陽光昔設置を検討した。危ないと言われているので導入しなかった。どれだけの家でできるのか。導入したはいいが、継続して保持するとか大変な労力にもなる。

碓氷委員：太陽光はほとんどが外国からの輸入もの。国で製造から廃棄までの循環サイクルを管理すべきだが、そういった仕組みはできていない。国産のものを生産してから普及させるべきである。

3 他の自治体等の事例について

星加主査：他の自治体の施策の事例について。資料6の足立区の事例は、再エネ100%を導入した場合、協力金として年間2万円を支給するというものである。この制度について意見あるか。

土屋委員：政府目標2030年までに38%削減するというもの。今の状況では難しい。目先の2万円だけでなく、長期的な計画が必要。

三浦参事：再エネの方が通常の電力料金より割高なため、再生エネルギーの料金増分を助成するという趣旨。省エネへのきっかけづくりになると考える。

小木曾委員：難しいと思う。それより蓄電池が高いので、開発のための費用を事業者に出すか導入費用を区民に助成するかの方がいいと思う。

森下委員：きっかけとしてはいいが、その後電気代が高かったら戻してしまうということも考えられる。継続してもらうよう工夫すべき。

小林紀委員：足立区のケースでは、100社あまりが登録している。その中で選び契約する形になる。

佐原委員：太陽光発電パネル設置のために自然破壊している例もある。自然エネルギーだから環境にやさしいとは限らない。むしろ色々な発電方法を紹介する方法の方がいいと思う。

森下委員：発電元のわかる再エネの電力会社と契約しているが、相手発電元の取組が見える電力会社と契約すれば環境にいいかどうか判断できると思う。

佐原委員：区が電力会社をつくり、各家庭で発電した電気を集めて配電する会社組織にするといったことであれば協力したい。

松村委員：調べたことがあり、電力を切り替えるときに年間1万円くらい高くなるシミュレーションがあった。2万円の助成は単身世帯には有効だが、世帯数が増えると料金が高くなることも考えられるので、単身世帯にはいい施策だと感じた。

星加主査：（小林紀委員に対し、）CO₂排出しない都市ガスの電気代の削減の料金幅はどうか。

小林紀委員：カーボンニュートラル都市ガスというものであるが、事業者向けにしか供給していない。かつ使用量が一定以上の事業者に限定している。

一般向けには直近では実施予定がない。再エネ事業者の中には、クリーンエネルギーに変えても金額が高くないところもある。

星加主査：再エネ促進の施策について、差額を補助するようになるような形にするのかどうか、実施することになれば内容は行政で検討していく。

資料4について、昨今電力需給がひっ迫している。みなさまも注視していただきたい。27日11時30分区安全支援課が防災行政無線で電力ひっ迫について周知を行った。その他安心安全メール等様々な方法で周知を行った。

この他、グリーンライフ・ポイント制度、資料7江東区の助成金も紹介。以上、これまでにあがった委員からの緩和策についての意見を参考にさせていただき、区政へ反映させていきたい。御協力ありがとうございました。また、今回土屋委員より参考になる資料を作成いただいた。是非読んでいただき、今後の会議の参考にしてほしい。

土屋委員：カーボンニュートラルへの理解のため、資料を作成した。参考にしてほしい。

その他

森下委員：普及啓発の方法を工夫する必要がある。くまもの例のように目につくところへの地道な広報の積み上げが大事。たもんじ農園が継続的に様々な活動をしているが、その中で、自然エネルギーを取り入れたビオトープづくりを行っている。企業や大学と協力しながら太陽光や水力などをつくり、ビオトープの水をきれいにする活動をしている。区民会議と協力しあえたらという提案があった。方法は色々あるが、見学会なり、情報交換していけたら良いと思う。

宇田川委員：森下委員からたもんじ農園との連携について提案があった。今年度はゼロカーボンに向けて検討しているので、具体的な協働は難しいが、情報交換はしていけたらと思う。

環境フェアは区民が環境について実体験できるいい機会。時間がないから意見はこの場では求めないが、全体やブースの展示方法、展示内容などについて、意見があれば7月12日までに事務局まで連絡してほしい。

佐原委員：環境フェアや夏休みすみだ環境プログラムについて、紙だけの周知だと何をやっているか伝わらない。会場の様子を動画で公開し、QRから見られるようにすればいいのでは。

宇田川委員：チラシについても、町会、自治会に配布したとあるが、配布して終わりではいけないと思う。町会、自治会の集いに手分けして説明しに行くくらいでないと効果が出ないと思う。そういった効果検証についても次回以降の会議の場で議論していきたい。

事務局：今回は適応策について議論していくので、御参加のほどよろしく申し上げます。

	以上
所 管 課	墨田区都市整備部環境担当環境保全課環境管理担当 内線 5 4 7 1